

## β 遮断薬の使い方⑥

### (大動脈弁逆流に対して)

重症ARの症例（平均EF54%）に、β 遮断薬を投与して4.4年観察したところ、β 遮断薬を投与された患者の方がβ 遮断薬を投与されなかった患者よりも有意に生存率が高かった。  
(Sampat)

心拍数が高い患者において、よりβ 遮断薬が有効であった。

ARの原因は二尖弁10%、大動脈基部の拡大10%、大動脈弁石灰化30%、感染性心内膜炎の既往が10%であった。

重症ARに対してのβ 遮断薬投与は禁忌ではなく、予後改善効果が期待できる。

Sampatは、重症僧帽弁閉鎖不全症に対するβ 遮断薬投与についても後ろ向きの解析を行っており、同様の結論を得ている。